

ニア

コミュニティーカフェ、各地に

商店街の空き店舗などを利用し、地域の交流の場として提供する「コミュニティーカフェ」が各地に広がっている。昔ながらのご近所づきあいが少なくなる中で、高齢者から子供まで、世代を超えた交流の場として親しまれている。

(榎田寿宏)

会話を楽しんで

東京都板橋区の高島平団地内、ファンシーフロア商店街の一角にある「コミュニティーカフェ・高島平駅前」は、誰でも利用できる「たまり場」。団地の近くに住む元バンドマンの桑原貞行さん(78)は毎日このカフェを訪れ、顔見知りとの会話を楽しんでいる。

「コーヒーも、おしゃべりしながら飲むとおいしさは格別です」。定期的に店で仲間とライブを開催し、スチールギターの腕前を披露。カフェのある暮らしを楽しんでいる。

このカフェがオープンしたのは平成26年。日曜・祝日以外は毎日、午前10時から午後6時まで営業している。店内

世代を超え憩いと交流

にはテーブルが5卓あり、ホットコーヒーは220円、カレライスは480円。訪れた人は思い思いの時間を過ごす。

店内では定期的に英会話教室や短歌会、紙芝居や朗読会などさまざまなイベントが開催される。

高島平団地は昭和40年代に入居が始まった。賃貸と分譲の計約1万戸を擁する大型団地で、高度経済成長期の当時、最先端の集合住宅として活気に満ちていた。ただ、働き盛りだった住民

も現在は高齢化が進み、入居者の約半分は65歳以上の高齢者で、単身者も多い。カフェを運営する会社「高島平ルネッサンス」の村奈嘉義雄代表は「多くの人に店でくつろいでもらい、団地の元気につながりたい」と話す。

読書や演奏、歌も

東京都世田谷区にある賃貸住宅とサービス付き高齢者向け住宅などの複合団地「コトシヤハイム千歳烏山」。この建物内にある「コミュニティーカフェななつのは」は、高齢者はもちろん、子育て中の人も利用する多世代交流施設だ。

コーシャハイムの改築に合わせ平成26年にオープンした。コーヒーなどが楽しめるカフェスペースとセミナーなどに使えるレンタルスペースがある。カフェスペースには住民から寄贈された図書1千冊以上が並び、お茶を飲みながら読書も楽しめる。

帰りたいたとき帰る

ギターやバイオリンなどの生演奏に合わせ懐かしい曲を歌う「歌声喫茶」や、古い映画の上映会などを開催している。また、子供を対象にした本の読み聞かせ、乳幼児向けの音楽会など、幅広い年代に向けたイベントも。70代の女性には「子育て中の人と話すのは楽しいし、見聞が広がって

いい」と笑顔で話した。運営するNPO法人ツナグバツクリの鎌田菜穂子代表理事は「イベントやカフェの運営を通じて、住民同士、顔の見えるコミュニティーづくりのお手伝いをしたい」と語っている。

公益社団法人・長寿社会文化協会によると、コミュニティーカフェが各地に広まったのは、10年頃から。集会所などを借りたり、お年寄りが自宅を開放したり、空き店舗や学校の空き教室を活用した例があるが、全国にどれくらいあるのか、正確な数は不明だ。

個人経営の喫茶店など、高齢者が気軽に地域の人と交流できる場所が減少し、また、地方では過疎化の進行も交流の機会減少につながっており、各地で「居場所づくり」が行われるようになったとみられている。

同協会コミュニティーカフェ事業担当の昆布山良則さんは「コミュニティーカフェの理想は、来たいときに来て帰りたいときに帰れること。程よい距離感の人間関係を築く場として、今後ますます広がるだろう」と話している。



高齢者のたまり場として親しまれている「コミュニティーカフェ・高島平駅前」

東京都板橋区



「コミュニティーカフェななつのは」で開かれた「歌声喫茶」

東京都世田谷区